

第 4 次障がい者計画の評価

第 4 次障がい者計画の基本理念及び最重点施策について、過去と今回のアンケート調査結果を比較し、評価します。

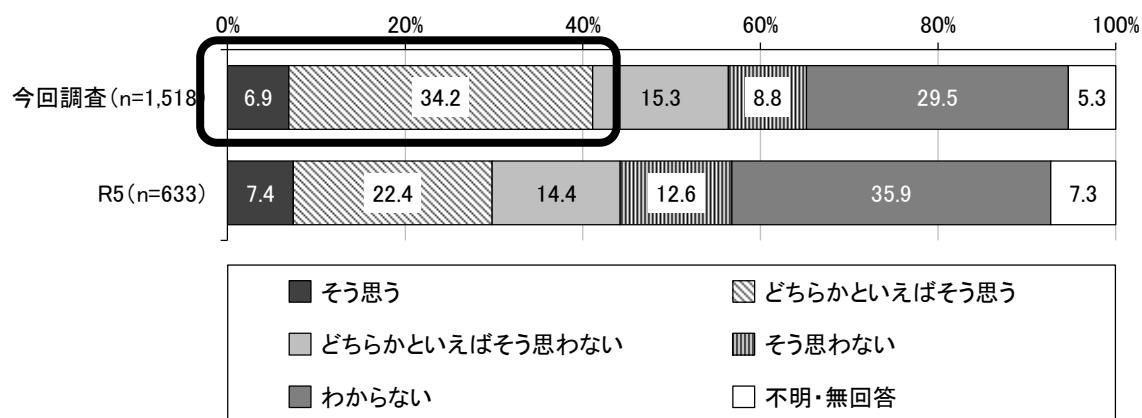
第 4 次計画の基本理念

障がいのある人もみんないきいき共に暮らせるまち・和泉

評価項目 1 和泉市は、障がい者が安心して生活できる環境が整っていると思いますか。

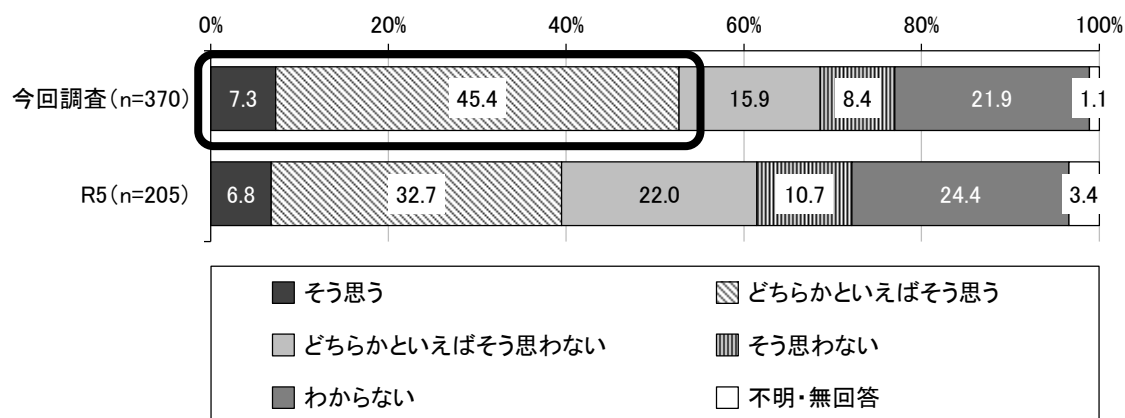
【障がい者】

○『思う』（「思う」＋「どちらかといえば思う」の計）が今回調査では 41.1%となっており、令和 5 年（29.8%）と比較して有意に増加しています。（+ 11.3 ポイント増）



【障がい児】

○『思う』が今回調査では 52.7%となっており、令和 5 年（39.5%）と比較して有意に増加しています。（+ 13.2 ポイント増）



第4次計画における最重点施策（1）地域での生活基盤づくり

障がいのある人が、地域において生活するためには、保健・医療・福祉をはじめとして関係機関の連携と、適切な障がい福祉サービスの提供など、地域の日常的な支援が必要不可欠です。

そこで、さまざまな相談窓口を整備・拡充するとともに、住宅の整備・改良、災害時の避難体制の確立、障がい福祉サービス等の充実、福祉のまちづくりを推進します。

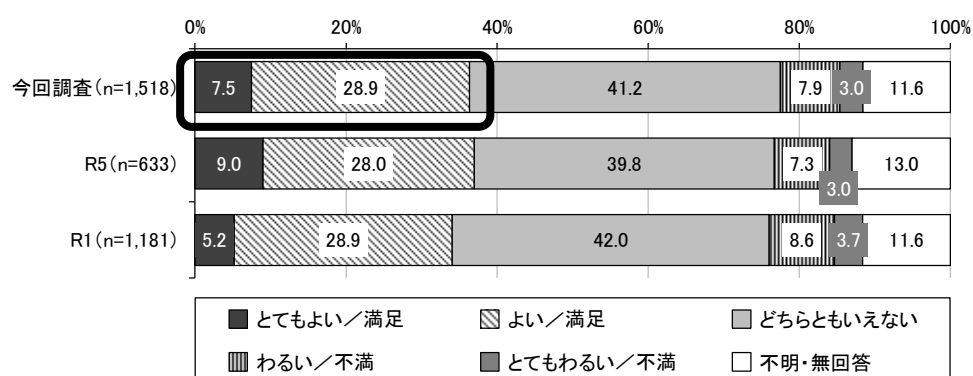
特に、障がい者の自立支援体制の整備・強化として、福祉施設の入所者の地域生活への移行、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築、地域生活支援拠点の運営、就労支援体制及び相談支援体制の充実に関して、各種部会において取り組みを推進し、取り組みの過程で生じる課題については、障がい者地域自立支援協議会において活発な協議を進めていきます。

評価項目1 あなたの現在の生活について5段階で評価してください。

⑧保健・福祉・医療サービス

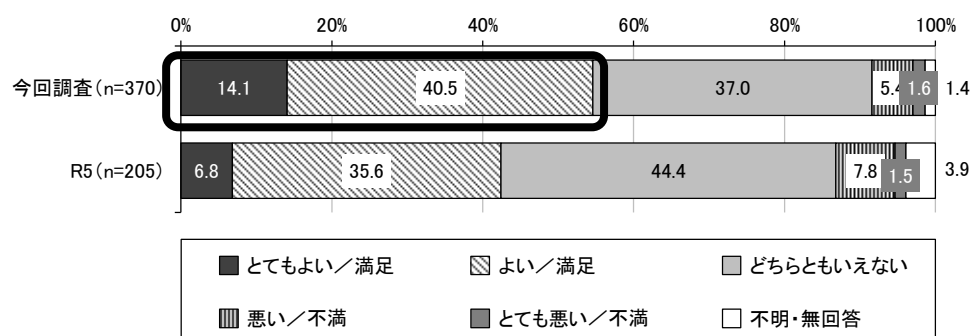
【障がい者】

○『満足』（「とてもよい／満足」＋「よい／満足」の計）が今回調査では36.4%となっており、令和5年（37.0%）、令和元年（34.0%）と比較して有意な差は見られません。



【障がい児】

○『満足』が今回調査では54.6%となっており、令和5年（42.4%）と比較して有意に増加しています。（＋12.2ポイント増）



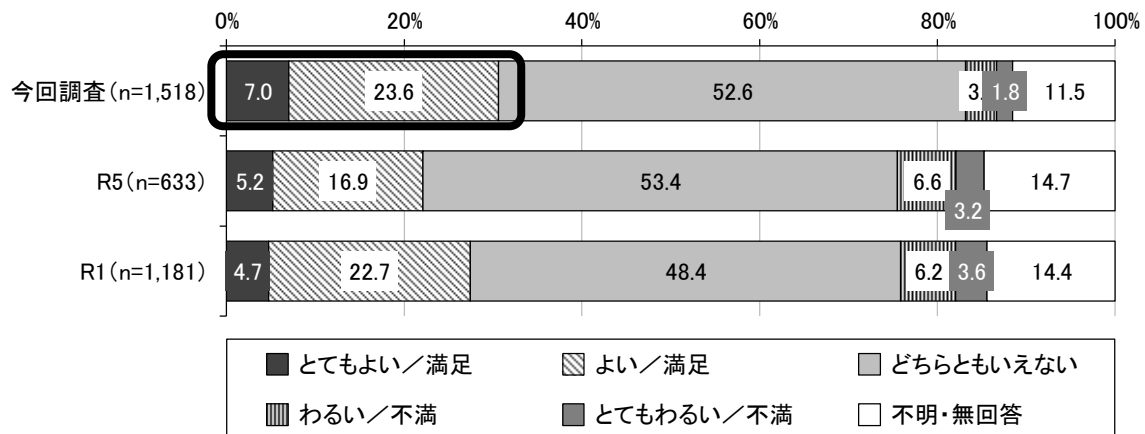
評価項目 2

あなたの現在の生活について5段階で評価してください。

⑤地域の人との関係

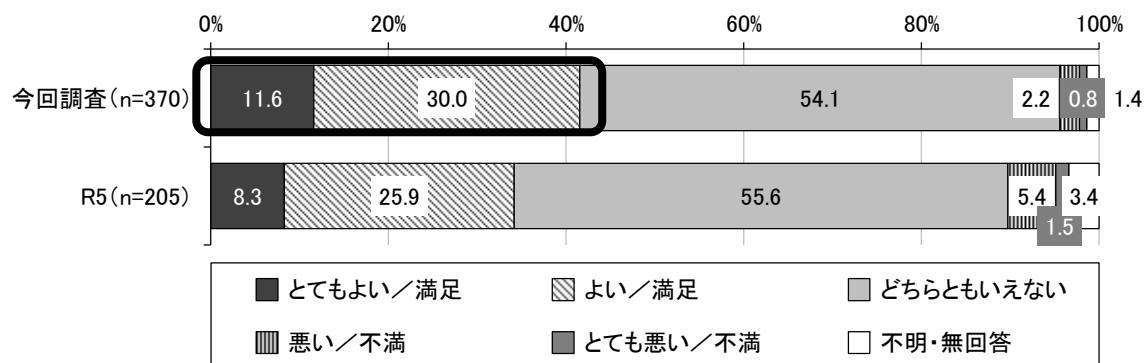
【障がい者】

○『満足』が今回調査では30.6%となっており、令和5年(22.1%)と比較すると、やや増加しています。(＋8.50ポイント増)、令和元年(27.4%)と比較して有意な差は見られません。



【障がい児】

○『満足』が今回調査では41.6%となっており、令和5年(34.2%)と比較して、やや増加が見られます。(＋7.4ポイント増)



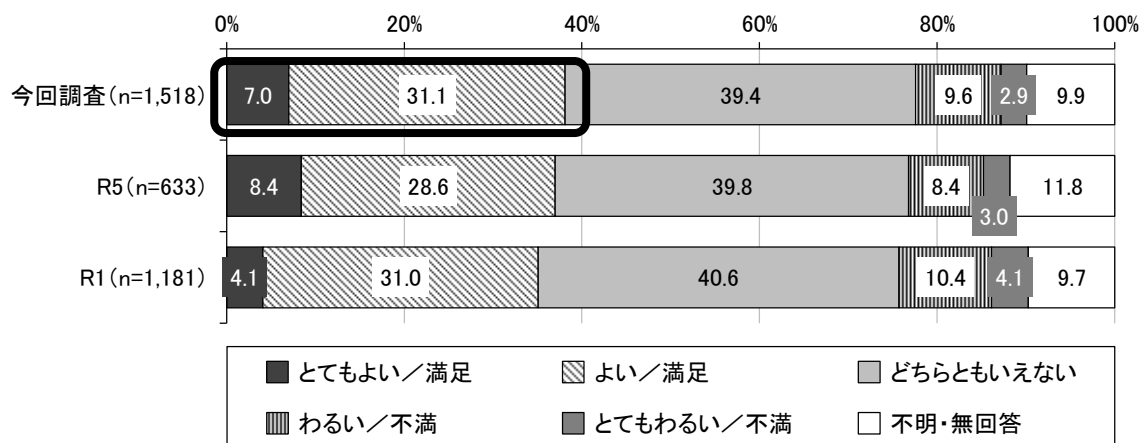
評価項目 3

あなたの現在の生活について5段階で評価してください。

⑨生活全般を総合的にみた評価

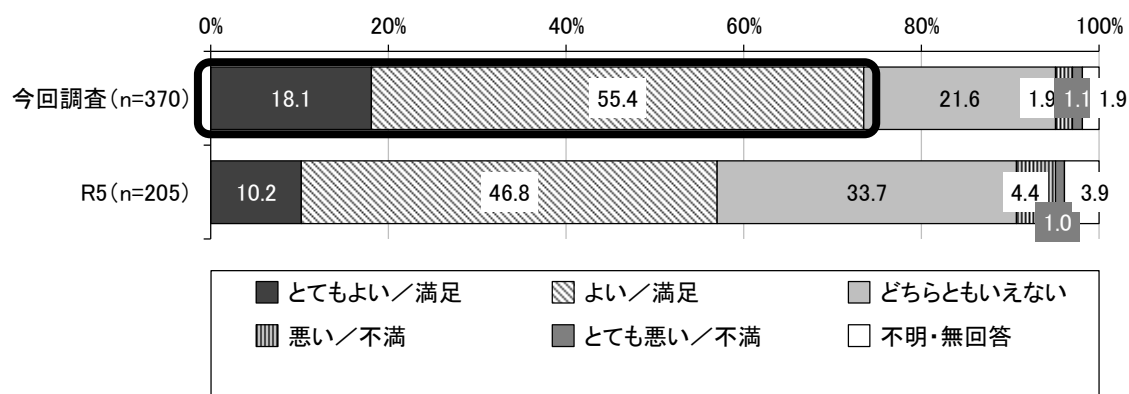
【障がい者】

○『満足』が今回調査では38.1%となっており、令和5年(37.0%)、令和元年(35.1%)と比較して有意な差は見られません。



【障がい児】

○『満足』が今回調査では73.5%となっており、令和5年(57.0%)と比較して有意に増加しています。(+ 16.5 ポイント増)



第4次計画における最重点施策（2）あいサポート運動の推進

「あいサポート」とは、愛情の「愛」、私の「I（アイ）」に共通する「あい」と、支える、応援する意味の「サポート」を組みあわせ、障がいのある人を優しく支え、自分の意志で行動することを意味しています。

「あいサポート運動」は、平成21年に鳥取県で始まった運動で、本市は、鳥取県と平成30年11月5日に「あいサポート運動にかかる協定」を締結し、『障がいのある人もない人も、共に生きることの大切さを認識し、共に自立し、支えあう社会を目指し、共生社会の実現に向けて、さらに一歩進んでいける』よう取り組んでいます。

日常生活のなかで、障がいのある人が困っているときなどに、ちょっとした手助けをする意欲がある方であれば、あいサポーター研修を受講することで誰でも「あいサポーター」になることができます。特別な技術の習得は必要ありません。この運動のシンボルマークである「あいサポートバッジ」を着用し、この運動を推進していきます。

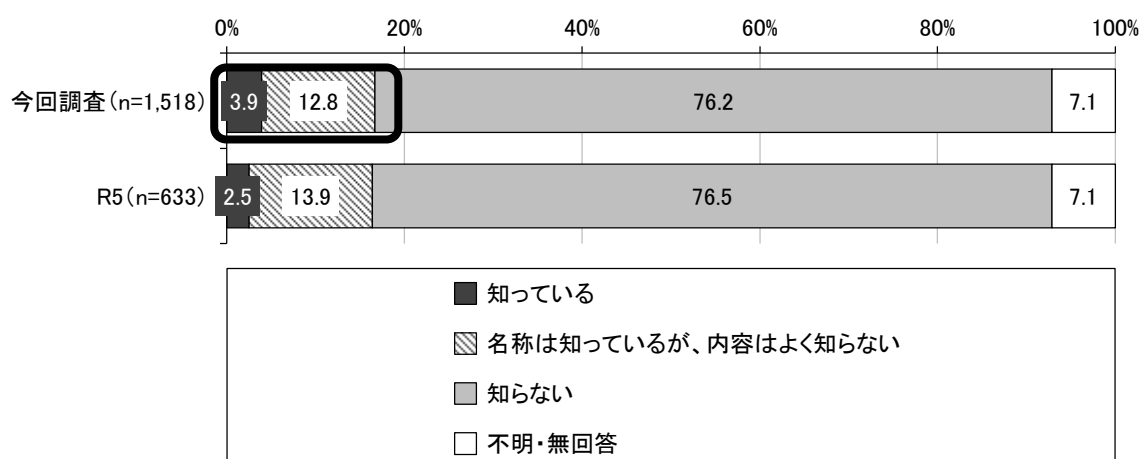
また、誰もが暮らしやすい地域社会の実現を担うのは、個人・行政だけでなく、企業・団体の役割も重要です。あいサポート運動の推進に取り組む「あいサポート企業・団体」として、職員や構成員への「あいサポーター研修」などを行っています。

この「あいサポート運動」を誰もが知る運動となるよう、「あいサポーター」「あいサポート企業・団体」と協力して進めていきます。

評価項目1 和泉市で取り組んでいる「あいサポート運動」を知っていますか。

【障がい者】

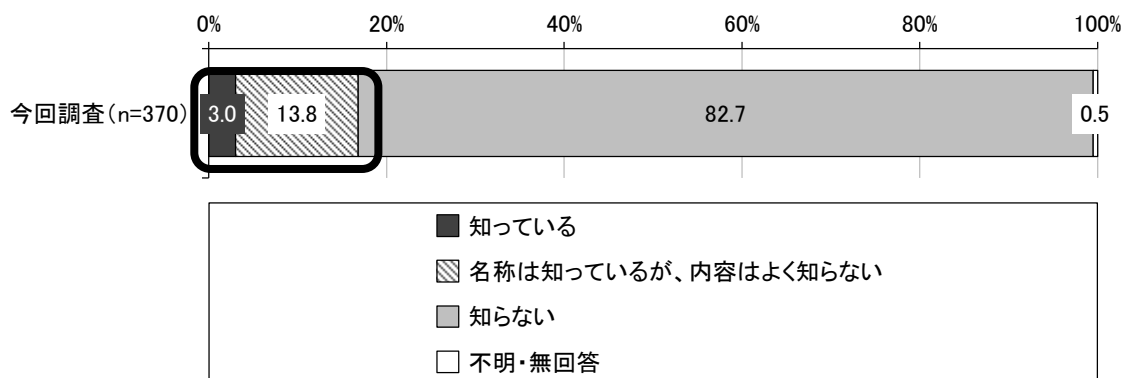
○『認知度』（「知っている」「名称は知っているが、内容はよく知らない」の計）が今回調査では16.7%となっており、令和5年（16.4%）と比較して有意な差は見られません。



【障がい児】

○『認知度』は、16.8%と、障がい者同様の傾向です。

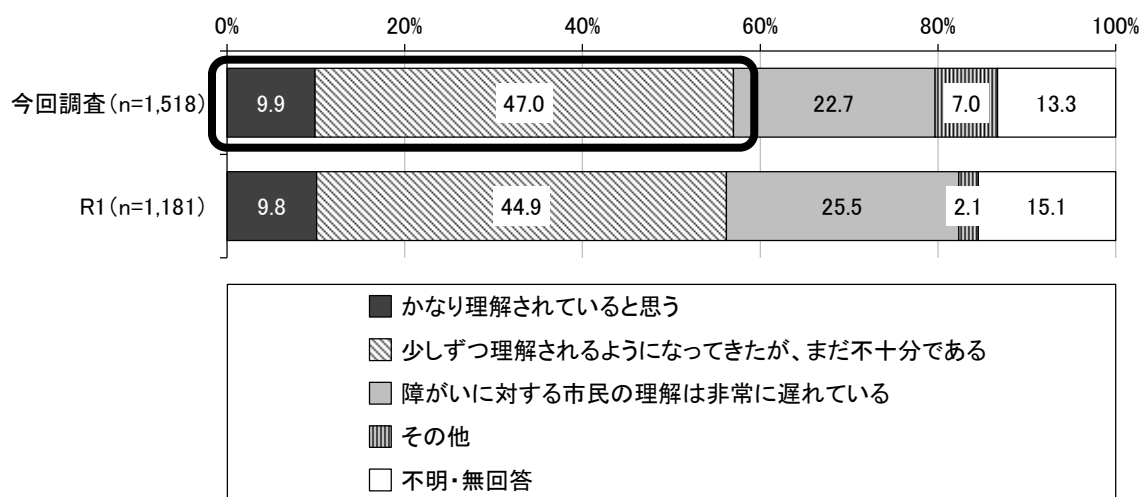
※令和5年は調査項目を設定していませんでした。



評価項目2 障がいに対する市民の理解は進んでいると思いますか。

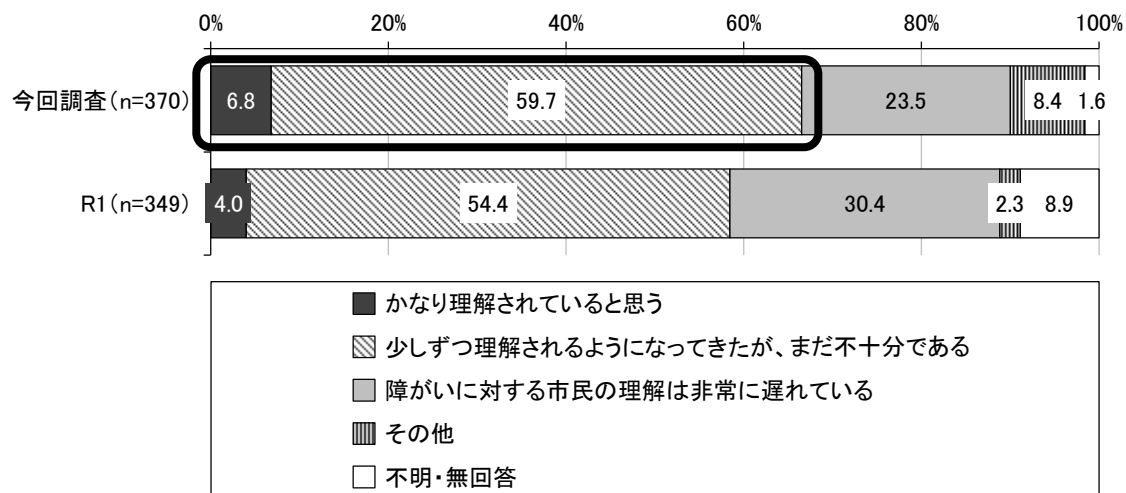
【障がい者】

○『理解が進んでいる』（「かなり理解されていると思う」「少しずつ理解されるようになってきたが、まだ不十分である」の計）が今回調査では 56.9%となっており、令和元年（54.7%）と比較して **有意な差は見られません**。「かなり理解されていると思う」「少しずつ理解されるようになってきたが、まだ不十分である」各項目についても、同様の傾向です。



【障がい児】

○『理解が進んでいる』が今回調査では 66.5%となっており、令和元年(58.5%)と比較して、やや増加が見られます。(＋8.0 ポイント増)。「かなり理解されていると思う」「少しずつ理解されるようになってきたが、まだ不十分である」各項目については、大きな差は見られません。



第4次計画における最重点施策

(3)「和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例」の推進

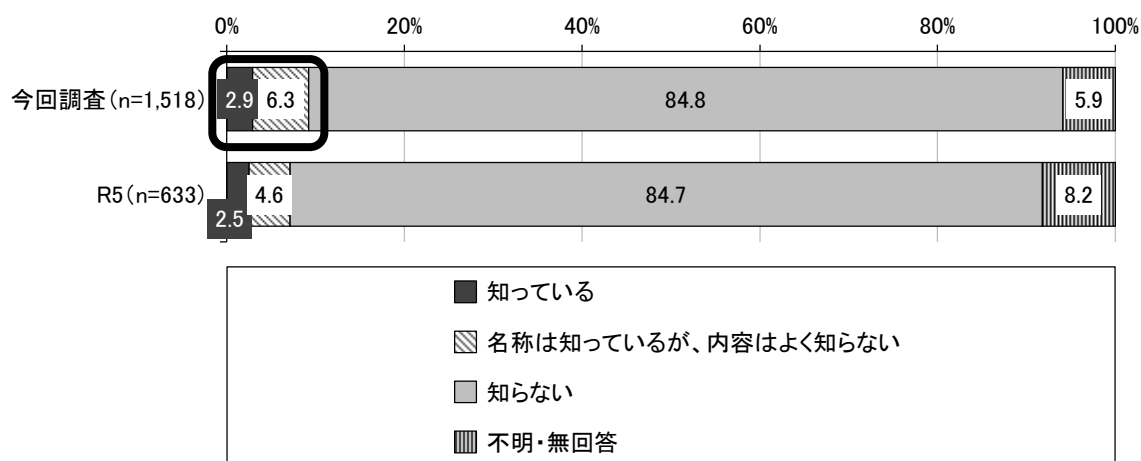
障がいのある・なし、コミュニケーション手段に関わらず、共に生きるまちが実現できるよう、「手話は言語であることの理解促進と普及」、「障がい特性に応じた様々なコミュニケーション手段を利用しやすい環境整備」、「相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会の実現」を目指します。その中で、市民や市職員等に対する手話講習会を実施し、手話への理解の促進及び普及を図るとともに、市主催の講演会での手話通訳者、要約筆記者の設置を推進します。また、障がい特性に応じたさまざまなコミュニケーション手段を利用しやすい環境の整備を図ります。

評価項目1

「和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例」を知っていますか。

【障がい者】

○『**認知度**』（「知っている」「名称は知っているが、内容はよく知らない」の計）が今回調査では9.2%となっており、令和5年（7.1%）と比較して**有意な差は見られません**。



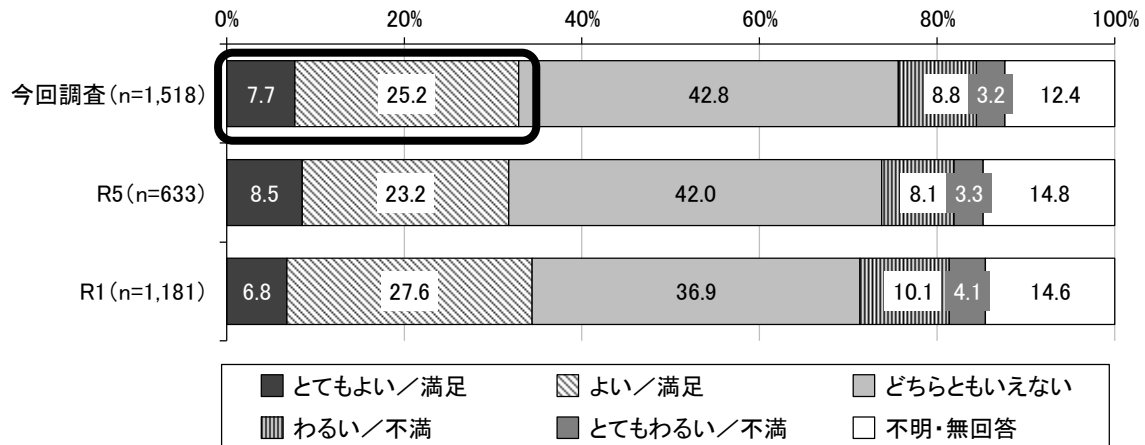
※「障がい児」では項目の設定はありません。

評価項目 2 あなたの現在の生活について5段階で評価してください。

⑦必要な情報の入手

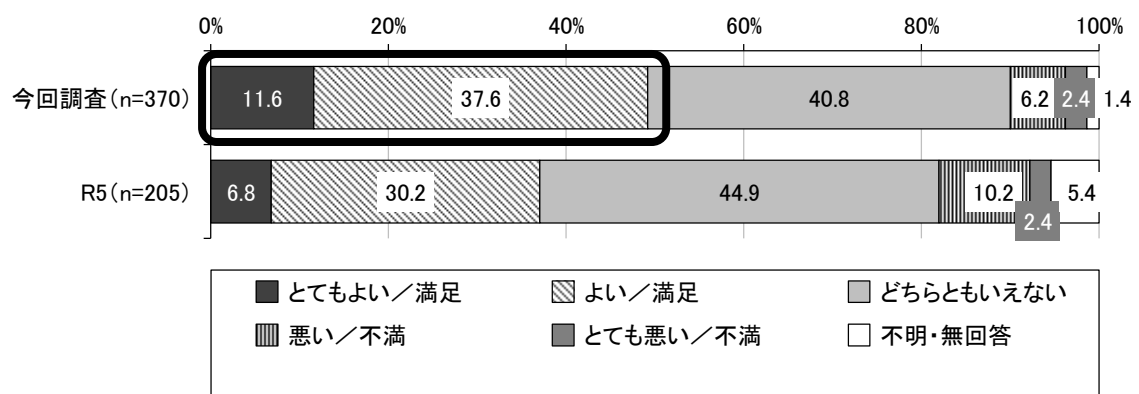
【障がい者】

○『満足』が今回調査では32.9%となっており、令和5年(31.7%)、令和元年(34.4%)と比較して有意な差は見られません。



【障がい児】

○『満足』が今回調査では49.2%となっており、令和5年(37.0%)、令和元年(34.4%)と比較して有意に増加しています。(＋12.2ポイント増)



第4次障がい者計画の評価（まとめ）

第4次障がい者計画の基本理念及び最重点施策について、過去と今回のアンケート調査結果を比較した結果を取りまとめると、次の通りとなります。

障がい児では、6項目中4項目で増加（改善）が見られました。障がい者では、最重点施策はいずれも「維持」となっています。また、いずれの項目も、割合が有意に減少した項目はありませんでした。

項目		評価基準	結果	
			障がい者	障がい児
基本理念		障がい者が安心して生活できる環境が整っていると感じる人の割合の増加	増加	増加
最重点施策※	(1)	⑧保健・福祉・医療サービスの満足度の上昇	維持	増加
		⑤地域の人との関係の満足度の上昇	維持※2	維持※2
		⑨生活全般を総合的にみた評価の満足度の上昇	維持	増加
	(2)	「あいサポート運動」認知度の上昇	維持	
		障がいに対する市民の理解の上昇	維持	維持※2
	(3)	「和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例」認知度の上昇	維持	
		⑦必要な情報の入手の満足度の上昇	維持	増加

※最重点施策の各項目

(1) 地域での生活基盤づくり

(2) あいサポート運動の推進

(3) 「和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例」の推進

※2 前回調査より+7～8ポイント程度の差の場合、「維持」と評価しています。